

時代化
讀書

渡辺
利夫



国内において留学生を持つところのものだといつも積極的な姿勢から、みずから等教育機関への進出をして「ワン・ストップ・センター」と呼ばれる、国際教育市場の情報提供に始まり、入学試験、留学後の結果である。

いう。留学生の高まる大学に入学を許可されるかのアクセスを改善するかわからないという不安のトを最小化させて中で学びつけなければならぬい。一言でいつて日本留学のコストは高いのである。

アジアの高成長は、都市を中心とした所得水準と教育水準において高い中産階層を大量に創出し

万人、うちアジアからの留学生が八十六万人、43%を占める。留学生総数は一〇二五年には七

実際、イギリスやオーストラリアは留学生の需要と供給の織りなす世界市場を「国際教育市転換である。今までの一連の供するといふ。

眞したサービスを提
う積極的な姿勢への
の対応は
わねばな
日本留学

隨分と遅れているとい 教育の展開が急務である。現地
らない。海外において で一定レベル以上の留学生を確
のための情報入手は難 保して渡日させるなどにより、

留学生受け入れ体制の整備を

る。中国の都市中産階層に典型的にみられるように、アジアの「高等教育熱」は文字通り熱気に満ちたものである。他方、国内の高等教育機関は量的にも質的にもなお不十分であり、おのずと海外留学に目が向けられる。

現在、世界の高等教育機関で学ぶ海外留学生の総数は約二百

百七十万人に膨れ上がり、そのうち五百四十万人すなわち70%がアジアからの留学生になろうと予測されている。

少子高齢化を迎えてグローバルな人材獲得競争にのぎを削る先進諸国にとって、アジアの「海外留学熱」は好機である。

場」と見立て、国家的な政策として世界各地に留学生受け入れのための拠点網を着々と築き、留学生獲得競争で優位な立場を確保しようとしている。ドイツやフランスなどの非英語圏も留学生受け入れのためのアジア拠点の整備に乗り出している。

その他、留学前の予備教育、大学分校の設置、情報通信機器を利用した遠隔教育などさまざまの手段を織り交ぜた「オフショア・プログラム」が盛んに試みられている。オーストラリアへの留学生の三十数%がこれらオフショア・プログラムを経験

も乏しい。母国の日本語学校で初級の日本語を学んだの、その目的のために今年一月後、日本にきて日本語学校で一に日本の十五の大学と一つの専門学校までの日本語学校での情報や進学指導を経てようやく大学受験に臨むといふのが、私費留学生の一として「日本国際教育大学連合」が発足した」とは一般的な姿である。

入学までの期間が長く、希望不可欠である。(拓殖大学学長) 朗報である。しかし公的支援は遅きに失した感はあるもの